

絆

題字
堤 美幸 前理事
(新潟市青少年育成協議会
創立61年目を迎えて題字を
刷新しました。)

新潟市
青少年育成協議会

第12号

●発行●
令和4年1月13日

●事務局●
新潟市教育委員会
地域教育推進課

「それでも子どもたちと
一緒に活動する大切さ」
「コロナ禍での健全育成活動」



新潟市青少年育成協議会
会長 郷 扶二子

新年あけましておめでとございます。
関係団体の皆さまには、日頃より当会の活動にご理解とご協力をいただきありがとうございます。

昨年度から、新型コロナウイルス感染拡大予防のため様々な活動ができなくなり、それぞれの団体の方々は新しい生活様式の中での活動のあり方にご苦労していることと思います。
今までの青少年育成協議会の活動は、「子どもとおとな」「子どもと子ども」の活動を通しておとなの知恵や仲間と協力し合うことを学ぶ場面が多くあったと思います。しかし、三密を避けるために一緒に活動が難しくなっています。

今年度は幸いなことにワクチン接種が進み、新型コロナウイルスに対して私たちの対応も少し前向きになってきたように感じています。当会では、六月に人数は減りましたが対面で総会を行いました。八月の「わたしの主張新潟市地区大会」は発表者の皆さんの主張を会場で聞くことができま

した。それらを通してやはり対面することの大切さを実感いたしました。

来年度から新潟市ではコミュニティ・スクールが始まります。地域と学校が自分の地域の課題を共有し、地域の子どもたちをどんなふうに育てていきたいのかを一緒に考え、学校にお任せするだけでなく、地域ができることを実践していく仕組みです。今よりも踏み込んで社会全体で子どもを育てる新潟市になるのだと思っています。

コミュニティ・スクールを通して、それぞれの地域の中で青少年育成協議会が子どもの育成に関して大きな役割を担う地域団体となつてくると思います。そして、おとなのやる気が試されてくるのではないかと感じています。

どんな時代になつても、工夫をしながら子どもと一緒に活動することを大切にしていきたいと思っています。一緒に汗をかくことで、地域の子どもたちが自分の地域に愛着をもち、心の中にふるさとを大切に育てていくのだと思います。

これからも子どもたちの地域活動の中で、子どもを育むおとなの輪が大きく育つことを願うとともに皆様方の変わらぬ活躍をご祈念いたします。

どうぞ今年もよろしくお願いいたします。

令和三年度

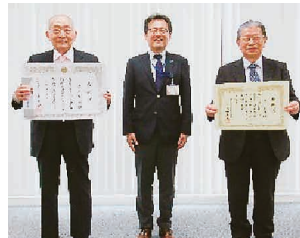
県・市功労者表彰受賞者紹介

青少年健全育成成功労者新潟県知事表彰

宮浦中学校地区 水本 直彌様
宮浦中学校区青少年育成協議会で、理事や会長を長年務めています。また、新潟市青少年育成協議会の理事を十一年間務め、非行防止や健全育成に貢献しています。

新潟県青少年健全育成県民会議会長表彰

有明台小学校地区 関川 弘雄様
有明台小学校地区青少年育成協議会及び同校区コミュニティ協議会の会長を務めています。また、新潟市青少年育成協議会の理事及び正副会長を十二年間務め、非行防止や健全育成に貢献しています。



(写真左より) 水本様・本間教育次長・関川様

新潟市青少年育成協議会 功労者表彰

木戸中学校地区 井筒 進様
木戸中学校区青少年育成協議会の会長として長年に渡り、会の運営・発展に尽力しました。同会の地域での役割やあり方及び方向性を示すなど指導性を発揮しました。常に子どもたちの生活環境に心を配り、健全育成活動に貢献しました。

東新潟地区 増井 智子様
長年にわたり、東新潟地区青少年育成協議会の役員及び会長を務め、同地区の青少年育成に尽力しています。また地域・保護者・学校が一体となった育成協議会の振興に貢献しています。

中之口地区 山田 義栄様
合併前の中之口村の頃から現在まで、青少年の育成活動に携わり中心となつて活動を続けてきました。スタッフ等からも信頼が厚く、地域に根差した事業を成功に導くために組織を盛り上げました。

巻地区 佐藤 智恵子様
平成二十一年度から巻地区青少年育成協議会の役員として活動してきました。巻地区ウォークラリー等を実施する際は、他の部員のお手本となるような活動をし地域活動の活性化に貢献しています。

白井地区みどりの会様
ふるさとのよさを学ぶ「白井のいいね体験活動」に協力し、八年間に渡って、児童とともに地域の花いっぱい運動を展開しています。通学路に面した場所にひまわり畑を作り、「コロナ禍の中でも児童生徒に優しい心を育ててほしい」と願い、活動に取り組んでいます。

※受賞おめでとうございます。



(前列左から巻地区代理・増井様・中之口地区代理・井筒様・白井地区みどりの会 長橋様 後列左から宇ノ井課長・関川前会長)

八月二十一日（土）、新潟市黒崎市民会館を会場に、わたしの主張新潟市地区大会を開催いたしました。市内の中学生百四十六名の応募の中から選ばれた八名が、日ごろ考えている思いを熱く語りまし

た。司会は、黒崎中学校三年寺島実夢さん、栗林寿さんが上手に務めてくれました。

最優秀賞は、曾野木中学校二年白井晴菜さんが、優秀賞は、新潟明訓中学校三年安田梨乃さん・坂井輪中学校三年加藤日菜さんが、それぞれ受賞しました。

白井さんは市の代表として県大会に出場し、心のもった素晴らしい発表をしました。なお県大会は、感染拡大の影響により映像審査となりました。審査の結果、白井さんは奨励賞・審査員特別賞を受賞しました。



発表者、司会者及び審査員による記念写真

“わたしの主張”発表されたみなさん（発表順・敬称略）

◎最優秀賞 ○優秀賞

学校名	学年	氏名	発表テーマ
木崎中学校	3	佐久間凜果	夢を実現するために
坂井輪中学校	2	小林 真希	命は平等
○新潟明訓中学校	3	安田 梨乃	音楽とともに
鳥屋野中学校	3	手代木 幸	「主張したいこと」はありますか
高志中等教育学校	3	清野 真央	一言
○坂井輪中学校	3	加藤 日菜	身近な人の「老い」と向き合う
黒崎中学校	3	園田かづは	何のために勉強するのか
◎曾野木中学校	2	白井 晴菜	闇を照らすトーチのように

新潟市地区大会最優秀賞

闇を照らすトーチのように



新潟市立曾野木中学校 二年 白井 晴菜

皆さんは、これが何かわかりますか？そうです。東京オリンピックの聖火リレーに使われたトーチです。では、なぜ今ここにそのトーチを私が持っているのでしょうか。それは、私が今年の六月五日に聖火ランナーの伴走者として走ったからです。実際にこのトーチを持って走ったのは、私の父です。父がトーチを持ち、その父の乗る車椅子を私が押して走りました。私の父は、

首から下が自由に動かせず、車椅子に乗っています。脚が動かないだけでなく、手もグーのまま、しっかりと開きません。ですが、そんな父を私は「変だ」と思ったことは一度もありません。ごく当たり前のこととして生活しています。確かに、不便なことはいろいろあります。けれど、たとえ手が開かなくても、工夫してペンを持って文字を書くこともできますし、障がい者専用で改良された車で、運転することもできます。少し工夫したり努力をしたりすれば、当たり前前の生活を送ることができるようです。また、父は県庁の総務管理部という部署で仕事をしています。社会人として世の中に貢献するとともに、私たち家族をしっかり養ってくれています。

しかし、一人の社会人として当たり前前の生活を送るためには、父のためめ努力があったのです。父は障がいを負った当初、自分の人生に絶望感を覚えたそうです。それはそうでしょう。自力では覆返りを打つこともできず、食事を口に運ぶことすらできなかつたのです。その上、一生を車椅子で過ごさなければならぬとしたら、生きる希望を失っても不思議ではありません。けれど、父はいつまでも絶望の暗闇の中に留まっていませんでした。一年半のリハビリを終え、退院後は通信教育で勉強し、

大学卒業の資格を取りました。その上、専門学校にも通い、様々な資格も取得しました。そして、今の仕事に就くことができたのです。さらに、父は車椅子バスケットボールにも取り組んでいます。私は小さいころからその父の姿をよく見ていました。そこではみんな、真剣に競技に取り組み、スポーツを楽しんでいます。しかし、時には嫌な思いをしたり、困ったりすることもあります。例えば、外出したとき、いろいろな人が父のことをジューツ

と見ることがあります。私はそんな様子を見て、「うちのお父さんって、そんなに特別なのかな？」とかえって不思議に思っています。父は、「お父さん、カッコいいからみんな見とれちゃうんだよ。」とおどけて言いますが、そういう視線のせいで外出しにくくなることだってあります。現に、私の母がリハビリの仕事をしてきたとき、人の視線が気になって外に出なくなってしまう患者さんがいたそうです。他の人と少し動き方や話し方が違うだけで、特別な目で見られるべきではありません。大事なのは、障がいのあるなしに関わらず、一人一人が個性や持てる能力を発揮して生きることができるといことです。父に、今回なぜ聖火ランナーに応募したのか尋ねてみると、「自宅と職場を往復している姿だけでなく、何かに挑戦する姿をみんなに見せたかったからだよ。」と教えてくれました。父と一緒に聖火ランナーとして走ったとき、わずか二百メートルあまりの距離でしたが、沿道の人たちは、みな温かい拍手と笑顔を送ってくれました。

障がいがあるうがなろうが、みんな同じ一人の人間として認め合い、励まし合い、足りないところがあつたら助け合って生きる社会を築くこと。そして、たとえ障がいがあつたとしても、それをできないことの原因にせず、自分の人生を切り拓く努力をすること。それが、人として本当に大切なことであると、私は父の姿から学びました。私にとつて父は暗闇を照らすトーチのように、人生の指標を照らしてくれる存在なのです。「お父さん、トーチを持って走る姿、最高にかっこよかつたよ！私もお父さんみたいに困難があつてもあきらめずに、何事にも挑戦する人間になるようにがんばるからね！」

各区青少年育成協議会の活動紹介



秋葉区

秋葉区育成協では、4月18日に「秋葉区一斉クリーン作戦」を区内各所で実施しました。約5,700名の方が参加して3.7tのゴミを回収しました。



北区

濁川地区育成協では、コロナ対策を十分に施し7月30日小学校高学年を対象に工場見学（藤次郎など）を行いました。参加は9名でしたが好評でした。



南区

白根北中学校区育成協では、春に「花いっぱい運動」を行いました。今年は全校を縦割りにし、異学年で協力しながら活動しました。



東区

東新潟地区育成協では、7月22日に東新潟中学校PTA、地区コミ協、各自治体と連携し、地域清掃活動を590名で行いました。



西区

小新中学校区育成協では、中学校で創立40周年記念講演会を実施しました。生徒には、講演を通して、これからの未来や生き方について深く考える機会となりました。



中央区

白新地区育成協では、毎年2月上旬に「小学校6年生・中学校1年生交流会」を行い、中学校の様子を肌で感じたり、交流を深めたりしています。



西蒲区

巻地区育成協では、コロナ禍での万引き防止キャンペーンとして、夏休み前に区内の中学、高校の全生徒へチラシ入りティッシュが届くように各学校へお願いしてきました。



江南区

大江山地区育成協では3月7日に、すざぼり桜並木清掃を行いました。178人も参加があり、密を避けるため開会式を小、中学生と2部制にしました。

新潟市青少年育成協議会の主な活動紹介

年次総会

六月十四日(月)に、東区プラザで年次総会を行いました。二年ぶりの対面形式での開催で、各地区育成協からは代表一名の出席に絞り、全地区から出席していただきました。

令和二年度の事業報告及び決算報告に続き、令和三年度の新役員が承認されました。あわせて、令和三年度の事業計画及び予算案も承認されました。

《新役員》(敬称略)

- 会長 郷 扶二子(坂井輪)
- 副会長 五十嵐 陽子(小新)
- 理事 山田 純英(濁川)
- 理事 山田 純英(濁川)
- 理事 首藤 正男(岡方)
- 理事 増井 智子(東新潟)
- 理事 笹川 信之(木戸)
- 理事 宮原 務(宮浦)
- 理事 関川 弘雄(有明台)
- 理事 比企 裕子(大江山)
- 理事 横木 春三(両川)
- 理事 山田 道夫(中央)
- 理事 山田 啓一(新関)
- 理事 石田 亮(白根北)
- 理事 齋藤 栄樹(白南)
- 理事 山上 晴士(中之口)

*このへんお願ひいたしまへ。

*新潟市青少年育成協議会は新潟市からの補助金を受けて運営しています。

非行・被害防止 キャンペーン2021

青少年の非行・被害防止全国強調月間の取組として、七月三日(土)に街頭PR活動を実施しました。今年度も、各地区育成協会員や青少年関係団体等から、約五十名の皆様のご参加をいただきました。

今年度は、感染予防の観点から配布活動のみを行いました。新潟駅や万代シティ周辺で、啓発グッズの除菌ティッシュ約二千セットを配布しました。関係団体の子どもたちの元気な呼び掛けに、受け取る市民や旅行者の方からも自然と笑顔が溢れていました。



街頭PR活動の様子

標語・ポスターコンクール 入賞作品

少年の非行・被害防止全国強調月間の取組として、標語及びポスター(イラスト)を募集しました。テーマは、「万引き防止」と「インターネットの正しい利用」です。

市内の小中学生から以下のような応募がありました。

- ・標語部門： 六百六十八点
 - ・ポスター部門： 六十七点
- 審査の結果、次の作品が入賞しました。

標語部門(敬称略)

- ◆万引き防止の部
 - 《最優秀賞》西内野小五年 岩野 桐子
 - 「やっちゃだめその行動がこうかいに」
 - 《優秀賞》坂井輪中一年 杉澤 優奈
 - 「手を止めて見つめなおしてその行動」
 - 《優秀賞》西内野小五年 渡邊 のの
 - 「ついやった」そんな言葉は通じない」
- ◆インターネットの正しい利用の部
 - 《最優秀賞》白根第一中一年 小湊 恭祐
 - 「インターネット正しく利用楽しく利用」
 - 《優秀賞》西内野小五年 鈴木 蓉琉
 - 「その情報流していいの?本当に」
 - 《優秀賞》坂井輪中一年 神威 美和
 - 「気を付けて!軽い気持ちで書く言葉」

ポスター部門(敬称略)

- ◆万引き防止の部
 - 《最優秀賞》白山小五年 内山 侑慈
 - 《優秀賞》鏡郷小六年 神田 晶
 - 《優秀賞》白根第一中一年 小熊 亜美
- ◆インターネットの正しい利用の部
 - 《最優秀賞》関屋小六年 齊藤 胡桃
 - 《優秀賞》白山小五年 松明 俐玖
 - 《優秀賞》鏡郷小六年 久原 繪日

*入賞者の作品は、啓発グッズの中に掲載しました。



配布した啓発グッズ

会長・事務局研修会



講師 小見 まいご様

十一月十五日(月)、新潟市黒崎市民会館において会長・事務局研修会を開催しました。昨年度は、六十周年記念イベントがあったため、二年ぶりの開催となりました。

前半は、「文部科学省コミュニティ・スクール推進員」の小見まいご様からご講演をいただきました。演題は「コミュニティ・スクールにおける育成協の役割」でした。令和四年度から新潟市立の全学校で展開される「コミュニティ・スクールと育成協のかわり方や役割について具体例を交えて、お話ししていただきました。今後の育成協の活動を一層充実させることにつながるヒントをたくさん見出すことができました。後半は、演題の内容とコロナ禍での各育成協の取組をグループに分かれて話し合いました。



熱心なグループ討議